

平成 29 年度 第 2 回学校協議会

平成 29 年度府立野崎高等学校第 2 回学校協議会議事録

日時：平成 29 年 11 月 24 日（金）

15:20～16:50

於：本校図書室

司会：橋爪 教頭

記録：原 圭佑

芝田裕美子

【次第】

- 1、校長挨拶
 - 2、事務局より
 - 3、協議・意見交換
 - 4、会長より
 - 5、事務局より
-

1. 校長挨拶

- ・ スクールリーダーフォーラムについて
- ・ 地域連携について（ミドルリーダー育成＝「学校」を知ること）

2. 事務局より

ア. 資料説明：教頭

イ. 本年度の取り組みについて：校長

- ・ 学習面や生活面で配慮や支援が必要な生徒に対して、できる限り個別対応を検討し、実施している。
- ・ 配慮が必要な生徒を早期に発見するために、今年度から居場所カフェを設置し、教育相談体制の充実を図っている。この事業は単年度予算のため、次年度以降に実施できるかは未定。

- ・ 広報活動の充実

- 生徒が出身中学校を訪問し、チャレンジ野崎の説明をして案内資料を渡すという新たな取組みを行った。また、近隣の中学校へは教員が訪問して案内を行った。

- チャレンジ野崎において、生徒主体の取組みを増やすことができて、中学生から好評であった。

- ・ 教員の長時間労働の緩和→継続していく。

ウ. 授業改善について：教頭

- ・ アンケート集計を業者委託から、校内処理に変更した。

- ・ 今回の特徴として、「全体の平均」で質問1 基礎学力と質問6 授業展開の項目で過去5回の最高値が出ている。

- ・ もう一つの大きな特徴として、42期1年生が全ての質問項目で最高値又は、高数値が出ている。

- ・ 今回初めて、アンケート分析資料に「習熟度別授業のアンケート結果」を取り入れて比較検証を行った。

- ・ 授業改善に向けた本校の様々な取組みや、教員の地道な授業工夫への試みが結果となって実を結びつつある。

エ. 各分掌より

- ・ H30 年度入学者選抜について：教務主任

- ・ 野崎高校としては、学力検査の種類・アドミッションポリシーともに昨年度からの変更点はない。

- ・ H30 年度選抜から3年間の評定が活用される。

- ・ インフルエンザ等に罹患している場合の追検査が実施される。

- ・ H29 年度生指部重点目標について：生徒指導主事

- 生徒会活動・部活動の充実

- ・ 地域清掃や挨拶運動の強化、生徒委員会の活性化。

- ・ 生徒リーダー研修の実施（3年目）。

- ・ 体育大会、文化祭の生徒活動の活発化。

→生指案件への迅速で丁寧な対応

- ・喫煙関係は減少傾向にあるが、ネットトラブルが年々増加。

→規範意識の向上

- ・大きな服装の乱れは見られないが、制服の着こなしなどの指導が今後必要になる。
- ・自転車の交通マナー（道路の横断、逆走など）が一番の課題。

→遅刻数の減少

- ・昨年度から微増。ただ1年間で一番多くなる10、11月を抑えられている。1月、2月をどれだけ意識付けられるか。

・H29 進路指導部資料について：進路指導主事

→就職について

- ・昨年度に引き続き、今年度も求人状況については大幅な回復傾向が見られる。
- ・3年生の半数を超える100名程度の生徒が就職希望であり、現在70数名の生徒が内定をいただいている。その中でも、里山ボランティアをはじめ、太鼓集団「魁」等の課外活動を積極的に取り組んできた生徒は、主体性を発揮し就職活動に取り組んでいる。

→進学について

- ・進学希望者の大半が、AO入試と指定校推薦入試を利用して進学先を決定している。特に指定校推薦入試については、大阪産業大学をはじめとした連携校等に今年度も希望が集中していた。
- ・進学希望者の大半が日本学生支援機構奨学金利用のため、予約採用に申し込んでいる。今年度から本格実施された給付型の奨学金について、本校から推薦したもので不採用となった生徒はいなかった。また11月に給付型奨学金の本校推薦枠が1名追加される旨の通知が届いた。

→今年度の特徴

自らの進路を積極的に切り開いていこうと取り組むことができる生徒もいる一方で、進路先を決めきれずになかなか一歩踏み出せていない生徒も少なくない。そんな中、出身中学に出向きお世話になった先生に相談することで、目標が定まった生徒もいる。本校生の進路先決定には、地域をはじめ、様々な支援のうえに成り立っていることを改めて感じている。

・人権だよりについて：首席

→言葉遣いに関するワーク、車椅子バスケット選手の人権講演、スマホ川柳生徒作品の紹介。

オ. Jump Up PT について活動報告：首席

→5年目から10年目の教員によって構成され、学校の課題に対して自分たちで課題解決に向けた取組みを企画・展開していくもので、3年前から取り組んでいる。今年度のこれまでの取組みを紹介。

- ・OPEN CLASS（相互授業見学） ICT を活用した授業や他教科の授業見学など、各教員が自身の授業改善に活かしている。
- ・舞台設備の活用 平成28年度の学校経営推進費により、今年度リニューアルされた体育館の舞台設備（張り出し舞台・照明設備）を活用した文化祭の様子を報告。
- ・Jump Up! PT の生徒主体班が企画した、体育大会生徒リーダー研修（9月）の様子を報告。生徒自身がファシリテーターとなり、集団づくりを意識したワークを実施。ワークを通して、体育大会に向けて応援団活動をスムーズに行っていくためのコツを学んだ。

カ. 広報活動・地域連携について：首席

・H29「体験入学会チャレンジ野崎」実施結果

→参加総数98名と例年よりもやや参加が少なかった。当日・事

前欠席も約30名と多く、しっかりとした考察が必要。ただ、アンケート結果からは参加したほとんどの生徒・保護者から肯定的な意見をいただいております、一定の評価はできる。

今年度は新たな取り組みとして、生徒による運営を心がけた。全体会の司会進行・誘導・授業への入り込み・受付・野崎PR隊（1年生が体験入学会の案内を出身中学校へ持参し説明する取り組み）など、生徒の顔が見える体験入学会を意識した。アンケートの自由記述に「先輩」に関する肯定的な記述が多く、中学生・保護者へのイメージアップに繋がった。部活動に関する記述も多く、中学生の興味・関心の高さを再確認した。

・学校ブログ記事の紹介

→ブログ記事を頻繁に更新し、最新の学校情報を公開している。
一例として7月頃の記事を紹介。公立高校進学フェア、3年生の就職活動（応募前職場見学）の様子や、写真部や硬式テニス部の活動報告、行事の様子などを報告。

3. 協議・意見交換

会長：大変多くの取り組みがなされていて本当に毎回驚かされる。先生方のご負担は大丈夫ですか？

17時までには終われるように1人あたり2分ほどでお話ください。

委員：授業アンケートを見ると、OPEN CLASSなどの取り組みが有効に作用しているように思われる。

今後は英検や漢検などの資格取得を通じて生徒の自信の向上を促していくことも期待したい。

また、野球やサッカーはメジャーでどこでもやっているが、太鼓や里山など本校独自のものをもっと売りにしていくのも良いと思う。

委員：卒業生がお世話になっている。今後ともよろしくお願いします。

委員：文化祭のオープニングフェスティバルを見たが、照明やダンスには感心させられた。今後更に期待している。また、文化祭で竹を上手く使

ってくれて嬉しい。

委員：指導の難しさはよくわかるが、(学校の) 魅力作りのために、遅刻や化粧等の外面以外のところにどう目を向けてもらうのかを考える必要がある。

また、スポーツと違って太鼓は勝負ではないので、他校と「試合」ではなく「交流」をしていくのも、生徒たちの視野を広げることにもなると思う。

委員：PTA 会長になって半年を過ぎ、学校の色々な面を見せてもらっている。クラブの活動内容はわからないが、数が多くてびっくりした。PTA で購入した照明と舞台の備品が上手く活用されていて嬉しかった。

会長：委員がおっしゃられたように、資格を生徒に見につけさせるのは、生徒たちの自信にもつながるし、昨今大学が生徒の資格を評価していく流れになってきているので、どんどん推進していくべき。

野崎高校においては「オンリーワン」の要素をいかに広報で広めていくかということが本当に重要。

また、外国籍の生徒の日本語理解力をどのように上げていくかということもすごく大事。

時間がないので次回で構わないが、1年生の部活動所属率はどれくらいか？

自転車マナーの話も出たが、特に雨のときの対策は何かないか？

生指：法改正もあり自転車に対する世間の目は厳しくなっている。本校生は個々の生徒は信号を比較的守っているが、集団になると集団心理が働いてしまう。

会長：私立なので参考になるかは分からないが、同志社香里は生徒・教員・警備員が立っている。

チャレンジ野崎のアンケートの「受験するか分からない」の46%を是非取り込んでほしい。

教頭：次回は2月中旬でお願いしたい。2月15日(木)か2月22日(木)の日程で決定しだい後日連絡させていただきます。